

子育て支援と女性の働く場づくり
ボランティアからNPO、夢は会社経営へ

平成20年度 採択事業



迫きよみさん

子育てサークルからNPOへ

「宇治で子育てをしておよかった、とみんなが思える町に」「つながりのなかで楽しい子育てを」——特定非営利活動法人子育てを楽しむ会は、お母さんたちの仲間づくりの子育てサークルから始まりました。

「平成8（1996）年に長男を出産。妊娠中はつわりがひどく、半年間、家で寝ていて、気がつけば周りには知らない人ばかりでした。これじゃいけないといういろいろな場所へ出かけ、産後すぐにサークルをつくりました。府内のネットワークにも入ったのですが、やはり宇治で人とつながりたいと思っていたときに現副代表と出会い、「じゃあ宇治で親子一緒に育ち合える仲間をつくらう」と始めたのがきっかけでした」。当時を振り返るのは理事長の迫さんです。自らも保育士資格をもっておられます。

その後、子育て情報の提供や、親子の居場所づくり、母親のチャレンジ支援などの活動経験を重ね、NPOを立ち上げたのはサークル結成からちょうど10年が経過した頃でした。同じ年の平成20（2008）年、保育サポーター事業の拡大をめざしてファンドに挑戦。NPO枠として初のファンド採択となりました。



「おうちサロン」

保育サポーター事業

同会は事業展開のための独自スペース「おうちサロン」を新たに開設。また、ハンズオン支援のアドバイスを受けて作成したカラーパンフレットを武器に、保育サポーター事業の宣伝活動を始めました。それまで口コミだけだったのが、時間や料金等のシステムをきちんと明示したパンフレットを渡すと信頼感が全く違うことを改めて思いました。

保育サポーター事業とは、例えばヨガ教室に子育て中のお母さんが15人参加され、受講中、12人の子どもをみてほしい、という依頼があると、子どもの人数の約半分、6人～7人の保育サポーターを手配します。保育サポーターは地元

のお母さんたちです。自分の都合のつく時間に月2、3回、2時間程度、こうした保育サポーターの仕事をしています。

「終わったら勤務日報を提出してもらい、毎月の支払日にお給料として支払います。以前はその都度の精算で、「ボランティアでおこづかいがもらえる」感覚だったのですが、お給料にしたとたん、「働く」という意識に変化していきました」。

現在保育サポーターは50人を超えています。平成22（2010）年度は不況のため家計のやりくりが厳しく、また子供の成長に伴い出費も増えることなどの理由でフルタイムの仕事希望され、7、8人が辞めていかれました。すると今度は「子どもが幼稚園にあがったので」と、10人の新人サポーターさんが入って来られたそうです。

「子どもを預けるほうのお母さんにとっては、安心して講座や教室に参加してリフレッシュでき、サポートする側にとっては社会にカムバックしていくためのリハビリになる。子育ての支え合い、女性の働き方として、この循環はすごくいいと思っています」。

かつて子どもを預けていたお母さんが、今度はサポーターの側として参加して下さるケースが増えているそうです。



「おうちサロン」での手づくり教室

ビジネスとしての継続の難しさ

しかし保育サポーター事業を継続するためには、お母さんを対象にした保育付きの講座や集まりが世の中にたくさん存在しなければ、仕事も発生しません。

「市場そのものが小さいというか、安定的に収益をあげる事業としてはきびしいものがあります。ニーズがあってもそれがボランティアではなくビジネスとして継続できるか、しっかりと採算ベースがあるか、そういう判断は正直、甘かったと思っています」。

またファンド申請時にもう一つの事業として立ち上げを予定していた産前産後等の家庭支援サポーター事業は、依頼が急を要するものであったり、夜間や土・日対応が必要であったり、現在のサポート体制では、まだまだ時期尚早と判断。「でもこれは5年先ぐらいには報告できるように

したい」と、迫さんは前向きです。



「赤ちゃんサロン」の活動風景

可能性に向けて次のステージへ

迫さんはいま、NPOとは別に会社を起業する構想をあたためています。12年間、子育て支援に関わってきた経験を基に、確かな目で選んだ子育てグッズをサポート付きで販売するセレクトショップの経営です。

「私たちは商品リサーチできる人材と顧客を、同時にもっています。1センチ刻みでサイズのオーダーができる抱っこひもを提案して高評価を得た実績もありますし、オリジナル商品の開発力にも自信があります。自ら選んだ物の販売でしっかり利益をあげて、NPOを支えていきたいのです。非営利であるNPOではどうしても、どこまでがボランティアでどこからがビジネスか、線引きが難しい。でもボランティアから出発した私たちに「仕事をする」という自覚が育ったからこそ、事業経営へと発展してきた。そこで蓄積した知識やノウハウを次のステージに活かしていきたいのです」。

迫さんが子育てサークルを始めたとき、小さかったお子さんは現在、中2と小6になりました。「私は今年で49歳です。なんとか60歳までに、NPOと会社の両方を、後継者にバトンタッチしたいと思っているのですが」。

大きな夢に向かって歩き始めた迫さんとお母さんたち。これからもその確かな歩みは続いていくことでしょう。

事業概要

特定非営利法人 子育てを楽しむ会

<http://www.ujikko.net/ujikosodate/>

代表：迫 きよみ

業種：子育て支援サービス業

設立：平成11（1999）年

住所：〒611-0031

宇治市広野町西裏100 平和堂100BAN 店内2F

TEL：0774-44-2809 FAX：0774-44-2809